
ほんの少しの黒い人格

✧月夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほんの少しの黒い人格

【Nコード】

N5331I

【作者名】

月夜

【あらすじ】

のんびりとした雰囲気のある休みの日。けど、いつもと違っているのは、朝から姉の機嫌が、どういっわけか悪いこと。

今日は中学校が休みなのだけれど、姉の様子が、どうも朝からおかしい。

「ニュースは退屈だから、録画してたビデオでも見ようよ」
「いいわよ、このままで。今の世界を知るために必要なだから」

今は、茶の間にあるテーブルの前に並んで座って、割と真面目な雰囲気の新ニュース番組を見ている。

いつもなら、姉は僕が『別のテレビを見たい』とわがままを言うのと、『いいわよ。そのかわり、面白いやつね』と返してくれるはずなのに、今朝は機嫌が悪いのか、まるっきり正反対の意見しかくれなかった。

僕は中学一年生で、姉は二つ年上の中学三年生なのだけれど、姉は昔から変わったことをするのが好きだった。

いきなり僕に、ブラックコーヒーが満たんに入ったカップを差し出して、『これを飲んだら、心が大人になるわよ』とか言われたことがある。あの頃は小学五年生だったから、もちろん苦くて飲めたものじゃなかった。ちよつと泣いた。

そういえば、コーラだと思って飲もうとした、冷蔵庫に入っていたコップの中身が、うがい薬だったこともある。後で姉に聞いてみたら『冷やしたら、すがすがしい気分で風邪の予防が出来ると思っ』と話していた。変なおいに気付かなかったらと思うと、怖い。

だから、今回もきつと『人が急にひねくれたら、あんたがどんな反応するのか実験してるの』とか言い出すかもしれない。もうちょっと様子を見てみよう。

「あ、のど渴いたから、りんごジュースでも飲もうかな」

「あたしは野菜ジュースにするわ。ついでに取って来て」

「……また反対のこと言ってる」

僕は姉に聞こえないように、小さな声でつぶやいてから立ち上がった。りんごジュースが果物の飲み物だとすれば、姉の注文した野菜ジュースは、反対の意見ということになる。

僕は台所にある冷蔵庫に向かいながら、なぜ姉が、わざわざ真逆のことばかり話すのか理由を考えてみた。最近、姉が怒るようなことは言っていないはず。というよりも、ここ何日かは妙に機嫌がよかったかもしれない。そういえば、特に昨日が最高潮だった。事情は聞かなかったけど、なにか今日になって変化する理由でもあったのかな。理由、理由。

「……そっか。今日だったんだ」

歩きながら考えている途中、僕はとても大事な約束を忘れていたことに気付いて、がばつと体の向きを変えて、どたばたと姉のいる茶の間に引き返した。

本当に急なことで驚いたのか、姉は目を丸くして、僕の方をじっと見ている。

毎年のことなのに。原因は僕の方にあった。姉は変な実験をするために、ひねくれた人格でいたわけじゃなかった。悪かったのは僕

の方。僕は姉の黒い瞳をしっかりと見て、本当は最初に言うべきだった、お祝いの言葉を贈った。

「誕生日おめでとう。後でプレゼント買いに行こうね」

「……なによ、そんなこと言いに来たの？ びっくりしたわよ」

僕は内心、怒られるんじゃないかってドキドキしていたけど、姉はあんまり嬉しくないような反応をしている。けど、僕は仮にも血の繋がった姉弟なのだから、それが照れ隠ししてことくらい分かる。

「ごめんね。僕はりんごジュースにするけど、なに飲む？」

だから、この質問にどう答えてくれるかも、なんとなく分かっていた。姉の表情からは、もう黒い人格は消えていたから。

「え？ 決まってるじゃない。あんたと同じ飲み物ね」

ふわりと柔らかい笑顔を浮かべると、姉は今日初めて、僕と同じ意見を言ってくれた。

誕生日とは関係なく、僕たちはこれから大人になる。内面も、ちよつとずつ変わっていく。

けど僕は、姉がいつまでも、こういうかわいい性格を失わないでいてくれたらいいなと、ほんのちよつとだけ思っていた。

取りあえず、来年は頑張らなきゃいけない。

今度は僕から、誕生日おめでとうって、先制攻撃で祝ってやろう。

(後書き)

なんてことのない日常の出来事。小説という世界でくらい、普段と違う感覚にひたってくれたなら。

そんなことを考えながら書いた、とても短い小説でしたが……いかがだったでしょうか？

なにか未熟な部分などあれば、ぜひご指導のほど、よろしくお願
いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5331i/>

ほんの少しの黒い人格

2011年1月26日04時04分発行